愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	葛原 憲治	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

基礎アスレティックトレーニングの講義とアスレティックトレーニング実習をベースにして、スポーツ傷害の評価、傷害に対する処置法と予防法、治療、アスレティックリハビリテーションといった専門知識のさらなる理解及びスキルアップを図ることを目的とする。特に、学内の強化指定クラブと連携しながら、傷害後のアスレティックリハビリテーションのプログラム構築と処方を実践する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を行う。授業内容に応じて、グループワークを中心にディスカッション、プレゼンテーション、現場実習を取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	専門演習ゼミの運営方針等を説明する。	□
第2回	卒論準備１	検索した文献や学術論文を活用して、卒論研究の下書きをする。	□
第3回	卒論準備２	検索した文献や学術論文を活用して、卒論研究の下書きをする。	□
第4回	卒論準備３	検索した資料やインターネットからの情報等を活用して、卒論研究の下書きをする。	□
第5回	卒論発表会の準備１	卒論発表会に向けて、パワーポイントによる資料作成を行う。	□
第6回	卒論発表会の準備２	卒論発表会に向けて、パワーポイントによる資料作成を行う。	□
第7回	卒論発表会の準備３	卒論発表会に向けて、パワーポイントの資料に基づいた発表準備を行う。	□
第8回	卒論の要約提出	卒論の要約を執筆し、提出する。	□
第9回	卒論発表会	卒論発表会をパワーポイントを用いて行う（3年生ゼミと合同で実施）。	□
第10回	卒論準備４	卒論の推敲をする。	□
第11回	卒論準備５	卒論の最終仕上げをし、再度推敲する。	□
第12回	卒論最終提出	卒論を冊子にして提出をする。	□
第13回	ゼミナール大会の準備１	ゼミナール大会に向けて発表代表者を決定する。	□
第14回	ゼミナール大会の準備２	ゼミナール大会に向けて、パワーポイントによる資料作成および発表準備を行う。	□
第15回	ゼミナール大会、まとめ	ゼミナール大会でゼミ代表者が発表し、4年生ゼミの総括をする。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前に各自の卒論研究テーマに沿った文献や資料検索がスムーズにできるように準備する（2時間程度）。事後として、収集した文献や資料を活用し卒論執筆を行い、提出期限までに書き上げるように努力する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題は、添削をしてから返却し、全体として共通のポイントに関しては全体で共有できるように指導し、個別のポイントに関しては学生個々に個別指導を複数回行い、最低限の様式や内容になるように指導する。また、卒論に関して、各章毎に添削をし、学生個々の進捗状況に併せて個別指導する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018人間健康DP2	卒論や現場実習を通して、スポーツや健康増進、傷害予防に関わる専門的なトレーニングやコンディショニング指導をすることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	20%	80%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

卒論最終発表や卒論の内容を評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし（必要に応じて資料を配布する）	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	酒井聡樹、これから論文を書く若者のために（究極の大改訂版）、 共立出版	
2		
3		
4		
5		